

The University Times

http://jtimes.jp/utimes

produced by IELTS by Eiken × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2013

November 2013 Vol.30

CONTENTS

■ Visit a Global Company: グローバル企業訪問 大塚製薬株式会社	■ Learn About Industries: この業界を知りたい! 出版業界	■ Columns: IELTS Hot News / アゴス・ジャパンに聞く IELTS Hot News / 海外の学部	■ IELTS IELTS受験のガイダンス
1 2	5	8	11
■ Journalist's Eye: 英新新聞記者の視点 「東京五輪 / 国際成人力調査」	■ Studying Abroad in the U.S.A.: 私の米国留学 / 読んでほしいこの3冊 米国留学記 / 書籍紹介	■ Study Abroad Benefits: 留学で培う3つの力 グローバル人材力突破力・セルフマネジメント力	■ Crossword and Trivia 読み物
3	6	9	12
■ Special Feature: 特別読み物 「留学のすすめ」 東洋大学 芦沢真五教授	■ News in English 英文記事を読んでみよう	■ University's Challenge: 国際交流に取り組む大学 杏林大学	
4	7	10	

Visit a Global Company: グローバル企業訪問

世界の人々の健康に貢献する 「まねをしない」ものづくりの精神

Vol. 20 大塚製薬株式会社



大塚製薬を代表するニュートラシューティカルズ事業製品「ポカリスエット イオンウォーター」「ポカリスエット」

医薬・消費者商品ともにそれまでにない価値観の製品を生み出してきた大塚製薬。国内の製薬会社では若手ながら、海外事業を飛躍的に伸ばしている背景には、「大塚独自のものづくり」と、新たなフィールドに懸けるベンチャーの精神があった。

ポカリスエットやオロナミンCドリンク、カロリーメイトといったロングセラー商品で知られる大塚製薬。一般消費者にとってはこれらの機能性食品のイメージが強いかもしれないが、実は医薬関連事業でも業界トップクラスであり、その健康への貢献はいまや日本国内に留まらない。

2012年度の売上高に占める国内：海外の比率は38：62^{*1}。医薬関連事業は、全体の約75%を占めている。

中でも同社が開発し、世界60の国・地域で展開されている抗精神病薬は、世界の全医薬品売り上げランキングで7位^{*2}に位置づけられ、最も早く導入したアメリカで

は2012年10～12月期、2013年1～3月期において全医薬品中1位^{*3}の売り上げとなった。

こうした売り上げの功績もさることながら、画期的な創製と有用性から、この抗精神病薬は2013年度の全国発明表彰において、最高峰の賞である「恩賜発明賞」に輝いている。

病気を回復する医薬関連事業と、健康をサポートするニュートラシューティカルズ関連事業の両輪で、世界屈指の「トータル・ヘルスケア・カンパニー」へと成長した大塚製薬。しかしその歴史は創業1964年と、国内の製薬会社の多くが戦前から続いている

ことを考えると、意外にも若い会社なのだ。

その大塚製薬がなぜ、世界の医薬業界をリードするまでの成長を遂げることができたのか。そこには創業当時から一貫して変わらない「ものまねをしない」という革新性あふれるものづくりの精神と、「世界の人々に健康を」という高い志があった。

同社のグローバル展開の始まりは1973年、タイにおける輸液事業から始まる。アジア圏にマーケットの活路を見出すのは近年では珍しいことではないが、多くの企業が欧米に目を向けていた当時としては先見だった。

創業から10年足らずで海外進出に乗り出したのもまた、非常に意欲的なステップだった。医薬業界には各国で薬事行政が異なるなどのハードルも多いことから、歴史ある製薬会社でも、グローバル化が加速する近年になってようやく海外展開に踏み出したというところが多い。

他社のまねをしない「大塚独自の」製品開発と、広い視野での事業展開。大企業でありながら、今なおベンチャーの精神を持ち続けているのが、大塚製薬の底力なのだ。

求めるのは能動的な意欲と探究心

国内の製薬会社としてはいち早く海外展開を果たした大塚製薬だが、グローバル事業が飛躍的に伸びているのはここ数十年のことだと言う。その背景には先述の抗精神病薬をはじめ、数十年単位で挑んできた「ものまねをしない」新薬の開発が、世界市場で次々と花開いていることにもあるようだ。

「これまでもポストンキャリアフォーラム（世界最大規模の就職イベント）に20年来参加するなど、グローバルな視野での人材採用には取り組んできました。しかし近年

弊社ではビジネスの急速なグローバル化に比べて、人材が追いつかなくなっているのが実情です。グローバル人材の確保は、弊社の急務です」（人事部・課長 出来加奈子さん）

現在はアメリカ、ヨーロッパ、アジアと関係会社も含めて世界に27部門の研究所、139カ所の生産拠点を持つが、多くが現地採用で、日本人社員の研究・技術・開発職の駐在は各拠点で数名とそれほど多くない。

「最も多いのは現地法人の社長、つまり経営や人材のマネジメントという形での駐在です。弊社は現地のアイデンティティやポリシーを大切に考えています。現地の文化を大切にしながら大塚の精神を受け継いでいく。ですから、国内でしっかりやり遂げた人が海外赴任のチャンスをつかむのです」（出来さん）

社長といふかなりのキャリアを積んでいるイメージがあるが、入社5年目、27歳という若さで海外グループの社長を任せられた社員もいるという。年齢に関係なく、資質や意欲次第で責任あるポストを任せられるのも同社の特色のひとつだ。

もちろん駐在だけでなく、国内勤務でもグローバルに携わるケースは増えている。当然ながら語学力は必須だ。しかし「各部署内で専門的な語学のトレーニングをするケースはありますが、会社をあげての語学サポートは特にありません」とのこと。入社後の研修制度などはさまざまあるものの、「スキルアップは基本的に自己研鑽」との考えだ。

「弊社において最も非としているのが、与えられるのを待つという受け身の姿勢です。仕事にしてもスキルにしても、自らつかんでいく姿勢が求められるのです」（出来さん）



人事部の出来加奈子さん

*1 大塚製薬関係会社の連結。連結数値の監査は受けていない。

*2 ©2013 IMS Health World Review Preview 2013 (Year 2012 Sales Data) をもとに作成。無断転載禁止

*3 ©2013 IMS Health MIDAS Quantum 1Q/2013 Sales data をもとに作成。無断転載禁止

Visit a Global Company

グローバル企業訪問

個人で学び取るのもよし、中には社内グループを組んで勉強会をしている社員も多いという。

こうした能動的な姿勢を求め一方で、グローバル人材の育成には力を入れている。3年前からは、年間十数名の社員がアメリカの有名大学に留学してMBAを取得する「グローバルMBA制度」を導入。来年6月に帰国する一期生は、同社のグローバル事業の将来を担う人材として期待されている。

「英語が得意だった社員ばかりがこの制度にアプライしているわけではありません。将来、自分が就きたいポストをイメージし、そのためには語学が必要だと社会人になってから勉強を始めた人もいます」（出来さん）

社員一人ひとりが意欲と探究心を持って仕事に臨むこと。これもまた、「ビッグベンチャー」である大塚製薬の躍進の理由なのだ。

「『ものまねしない』ものづくりが弊社の

テーマですので、さまざまなタイプの人材を採用するように意識しています。学生時代に学業でもサークルでもバイトでも、何かを『やり遂げた』と胸を張れる人に大塚の門を叩いてほしいです。色々なアイデアを持った人には、大塚製薬はきっと面白くやりがいのある会社だと思いますよ」（出来さん）

大塚製薬株式会社

大塚ホールディングス株式会社の中核企業のひとつ。1921年、徳島に創立された大塚製薬工業部の販売会社として1964年に大塚製薬株式会社が設立される。オロナミンCドリンクやボカリスエットなど、医学的根拠に基づいた商品=ニュートラシューティカルのロングセラー商品が多数。また医薬事業では中枢神経やがん、消化器、循環器、呼吸器、感染症、眼科、皮膚科を重点領域として、世界規模での研究・開発を展開している。2012年には大塚製薬の2つの治療薬の研究が、世界トップクラスの医学雑誌に掲載されるなど、独自の開発が世界的に評価されている。

グローバル企業の先輩に聞く！

現地社員との討議で ぶつかり合い、互いに挑戦する

佐々木達也さん 大塚製薬 医薬品事業企画部
グローバルプロジェクト マネジメント ディレクター



1999年に入社し、英語力を認められて医薬品事業部門のライセンス部に配属される。2005年よりアメリカ・ニュージャージーの法人で、ライセンスと医薬品開発に携わる。2010年に帰国し、現在の部署では欧米を中心とした開発プロジェクトのタイムライン管理を担う

Q 現在の部署ではどのような仕事をされているのですか？

A 弊社の欧米法人で進行しているプロジェクトのタイムライン管理です。開発や薬事交渉などが予定通り進んでいるかを随時チェックしています。各プロジェクトの担当者と連絡を取りながら、たとえば計画の遅れなどがあつたら、どう対策を打つか、課題・リスク抽出をする部署でもあります。他社との提携プロジェクトなどでは3~4カ月に1回は会議のために出張していますが、今は多数のプロジェクトが同時進行しているので、ほぼ毎月1~2回は海外出張ですね。時差ほげともうまく付き合うようになりました。

Q 最初の配属と現在の部署に就くまでのプロセスを教えてください。

A 入社時点である程度の英語ができたので、最初の配属はライセンス部。互いの開発・製品ポートフォリオを、海外を含む製薬企業と紹介し合い、ライセンスの可能性を討議するという部署にいました。その後、入社6年目、30歳になる手前でアメリカのニュージャージーのオフィスに異動となり、5年間の駐在を経験しています。現地ではライセンスの仕事とともに、海外拠点でどのように事業が進んでいるかという、現在の業務内容につながることを勉強させていただきました。そして、帰国後に現在の部署に配属されました。

Q 専門用語を多用する業種だと思いますが、英語で困ることはありませんでしたか？

A 大学ではバイオロジーを専攻していましたが、正直言って大学で勉強したことはほとんど役に立たなかったですね。特に駐在時は私以外の日本人社員は2人だけ、あとは全員アメリカ人社員でしたので、2年位は非常に厳しい状態が続きました。たとえば日常会話は問題なくても、仕事の上でディスカッションができないとアメリカ人は相手をしてくれません。逆を言えば、片言でも相手の意見を的確に受け止めることができ、その上で自分の意見を主張して本質をとらえた討議ができれば、仕事のパートナーとして認めてくれるんですね。語学というのは必須のツールですが、それをいかに活用できるかが大事なのだと、痛感しました。

Q 現地で達成感を味わった経験は？

A アメリカ人社員からプロジェクトについて相談を受けたときは、「自分もチームのメンバーとして認められたんだ」とうれしくなりましたね。また、ある化合物の開発に携わって、かなり時間をかけて臨床試験の成功まで見届けたときには、大きな達成感がありました。メンバーたちとお祝いのディナーをしたときに、「あのときは大変だった」「キツイことも言ったよな」と苦労や本音を笑い話で語り合えたのもいい思い出です。

Q グローバル事業に携わる中で、日本人ならではの長所を感じることはありますか？

A あまり日本人であることを意識したことはないのですが、アメリカでは「自分の仕事の領域はここまで。あとは彼の仕事」という考え方もあります。ただ、プロジェクトを成功に導くためには、両者が意見を戦わせたほうがいい場合もある。そんなときに、両者の意見を聞いてつなげる努力をしたことはあります。アメリカ人ほどドライでなく、柔軟にかつ情熱を持って仕事を進めていけるのは日本人らしさかもしれません。

Q 英語はどのように習得したのですか？

A 高校卒業と同時に、父の赴任でアメリカに住むことになったんです。ニュージャージーの日本人がほとんどいない田舎町でした。当初は英語がまったくできなかったのですが、現地の高校に放り込まれてもひたすら沈黙の日々。悔しかったですね。将来はこの人たちとディスカッションしても負けないくらい自分

を高めたいと強く思いました。その後、語学学校を経て現地の大学に入りました。

Q もともと気概があったから、短期間で英語を身につけられたんですね。

A いや、気は強いほうではなかったですし、英語の必要性もそれほど考えていませんでした。ですから渡米当初は父親を恨みましたし、けんかもしましたよ。高校でやっていた剣道を大学でも続けたいという思いもありましたから。ただ、今となってはありがたかったと思っています。英語もさることながら、アメリカ生活を通して「発言すること」「前へ出ること」への躊躇がまったくなくなりましたから。弊社は互いの意見を戦わせ、ぶつかり合い、挑戦することを奨励する会社ですので、今の私には向いていると思います。

Q 大学生にメッセージをお願いします。

A 先ほども言いましたが、大学で学んだことが全て社会で通用するわけではありません。むしろ現場で学び、成長していくのだと思います。ですから、学生時代には、好きなことに夢中になったほうがいい。いまや英語を話せる日本人はたくさんいます。英語力も大切ですが、それに加えて「自分は誰よりも、これがんばった」という自負は社会に出てからの軸になるはず。私は、アメリカの小さな町道場で剣道を続けていました。ちなみに、アメリカでは剣道はあまり知られていないので、ハロウィンで道着・防具を一式付けたら、かなりウケましたよ。

佐々木さんのお仕事アイテム



複数の国に出張するため、電源の変換プラグは必携です。ウォーターマンのペンはプロジェクトの成功祝いにいただいたもの。海外企業のシニアマネージメントの方々との面談の際には、第一印象でずいぶん対応が変わります。ペンも含め、持ち物や身だしなみは大切なんですね。

Journalist's Eye

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう！

英字新聞 The Japan Times 記者が語る
日本の「今」を世界に伝えるための心得

—— Vol. 20 News in October by Masaaki Kameda

日本で起こっていることを外国人に伝えるときは、物事の背景を理解し、それを外国人にわかりやすく説明するスキルが求められる。このコーナーでは、英字新聞 The Japan Times の記者に登場していただき、記事をより深く理解し、自ら説明できるようになるためのコツを教えてください。今回は、オリンピック開催によって日本や東京がどう変わるのかということと、OECD が行った「国際成人力調査」について、亀田雅彰記者に伺った。

■ 2020年のオリンピックまでに日本はどう変わる？

- The 2020 Tokyo Summer Olympics will be a compact games, with roughly 75 percent of the sports venues within 8 km of the Olympic Village. Like the 1964 Olympics, the 2020 Summer Games are expected to have a positive impact not only economically but psychologically as well.
- 2020年の東京オリンピックは、会場の約75%が選手村から8キロ以内にある、コンパクトな大会になるだろう。1964年のオリンピック同様、2020年夏のオリンピックは、経済面のみならず、心理面でもよい効果をもたらすことが期待されている。

2020年の夏季オリンピックとパラリンピックが東京で開催されることが、今年9月に決定しました。どのような大会になるのか、これが日本や東京にとってどのような意味を持つものかといったことを紹介したいと思います。

3兆円の経済効果、15万人の雇用増

開催地決定以前から、東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会は、“Athlete First”（選手第一）の大会になることを強調

していました。選手村はウォーターフロントである晴海ふ頭に新たに建設され、1万7,000人の選手・関係者が滞在できるようになります。そして、37の会場のうち28施設が、ここから8キロ以内に位置するのです。そのうち22施設は今回のオリンピックのために新たに建設され、特に1964年のオリンピックのメイン会場であった新宿区の国立霞ヶ丘競技場を新国立競技場として建て替えることが決まっています。新宿、四谷、赤坂といった街

■日本人はコンピューターが苦手？

- Japanese adults excel at reading comprehension and handling mathematical information compared with their overseas counterparts, but are less competent when it comes to using technology for problem-solving and other tasks, according to a survey by the OECD.
- OECDの調査によると、日本の成人は、海外の国に比べ、「読解力」や「数的思考力」において優れているが、「ITを活用した問題解決能力」においては力が劣っている。

日本・韓国や北米・ヨーロッパの国々などが加盟するOECD（経済協力開発機構）が、10月に「国際成人力調査」（PIAAC = Programme for the International Assessment of Adult Competencies）の結果を発表しました。これは、仕事や日常生活で必要とされるスキルのうち、「読解力」「数的思考力」「ITを活用した問題解決能力」について、24の国と地域で16歳以上65歳以下の男女を対象に調査を行ったものです。ちなみに日本での調査は日本語で行われ、語学力を試すものではありません。

読解力・数的思考力では日本がトップ

「読解力」とは、例えば市民マラソンの案

内を載せたウェブサイトを見て、開催者の電話番号を調べるためのリンクをクリックする、図書館のウェブサイトの検索結果を見て、著者名を見つけるといったものです。「数的思考力」については、自動車の走行距離の記録から出張費を計算する、組み立てられた箱といくつかの展開図を見て、該当する展開図を選ぶといった問題が出されました。この「読解力」「数的思考力」について、日本はフィンランド、オランダ、ベルギーといった上位の国を抑え、24の国と地域の中でトップに立ったのです。「義務教育や企業の人材教育などに加え、自己啓発や生涯教育の成果なのではないかと考えています」と、文部科学省生涯学習政策局政策課の亀岡雄主任



2020年五輪開催地決定に伴い、東京都庁都民広場にて開催決定報告会が開かれた

kyodo

に近い便利な場所に、8万人を収容する、開閉式ドーム付きのスタジアムが建設されます。

東京都は、「2020年オリンピック・パラリンピックの経済波及効果は日本全国で約3兆円、雇用誘発数は約15万人」と発表しています。これは会場建設などオリンピックに直接かかわる事業についての試算で、道路や鉄道などのインフラ整備や、外国人観光客の増大などを含めると、さらに大きな効果があるのでは、と期待されています。

20代の97%がオリンピックに好意的

さらに今回のオリンピックは、日本人の心理面にも大きな影響があるのではないかとされています。物価の下落、高齢化、震災や原発事故など、数々の問題を抱えてきた日本にも、オリンピックのような世界最大のスポーツイベントを開催する力があるということ、世界に示すチャンスなのです。

政府の推計によると、2020年までに、日本の65歳以上の人口は29.1%を占めるようになります。1964年の東京オリンピック

開催時は、新幹線の開通、高速道路の整備などが急速に進められました。今回も、都内のすべての駅にエレベーター、車いす用の傾斜路を設けるなど、福祉に配慮した都市としての整備を行う計画があります。

オリンピックにより、さまざまな産業が活性化するのではないかと期待もあります。日本を訪れる外国人旅行者数を増加させるための「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を展開する観光庁は、2012年に年間836万人だった外国人旅行者数を、2030年には3,000万人超にしたいという目標を立てています。オリンピック開催が、この目標達成に大きく貢献するのではないかと考えられているのです。

文部科学省の調査によると、20～29歳の世代の97%が、オリンピックのような国際的なスポーツイベントを日本で開催することを好意的にとらえているとのことでした。今回のオリンピックによって日本社会がよい方向に変わるという期待が、若い世代の間にも広まっているのかもしれません。

*参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/news/2013/09/25/national/tokyo-nation-see-chance-to-rebuild-pride/>
<http://www.japantimes.co.jp/news/2013/09/13/national/compactness-key-to-olympics-plan/>

社会教育官は語っています。

IT問題でランクを下げた原因は？

これに対し、「ITを活用した問題解決能力」では、日本はかなり順位が下がり、参加国中10位となっています。この分野ではスウェーデンがトップ、フィンランドが2位です。

「ITを活用した問題解決能力」の問題は、メールでパーティーの招待状を送り、戻ってきた返事を、出席できる人とできない人のフォルダに分ける、会議室の予約申し込みのメールを読んで、会議室予約システムに登録するといったものです。

この問題については、コンピューターを使わず紙と鉛筆を使って答えることも可能だったのですが、紙と鉛筆で回答した人は、得点が得られません。日本の場合、紙で調査を受けた人が36.8%と、OECD平均を大きく上回り、それがランクが低い原因の一つなのではないかと思われます。実は、コンピューターを使った人だけの得点で見ると、参加国中1位なのです。

また、年齢別に見ると、日本は25歳から59歳の世代において、「ITを活用した問題解決能力」の習熟度がOECD平均を

大きく上回っているのですが、16歳から24歳、そして60歳から65歳においては、平均に近い、もしくはほぼ同じといった結果になっています。こういった世代による差も、日本の大きな特徴であるといえます。

この調査は、経済のグローバル化が進み「知識基盤社会」に移行する中で、各国の国民のスキルの現状を把握するために行われたものです。国際成人力調査の結果と問題例は文部科学省のウェブサイトで公開されているので、将来海外で活躍することを目標としている人は、ぜひ参考にしてみてください。

文部科学省 国際成人力調査

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/Others/1287165.htm

*参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/news/2013/10/08/national/japan-adults-tops-in-reading-math-but-slip-in-tech-related-tasks-oecd/#.UmliANJxu4Z>

● 今月の記者 ●

亀田雅彰さん
MASAAKI KAMEDA

英語学習紙『The Japan Times ST』（旧『週刊ST』）編集部を経て、今年4月からThe Japan Times 紙記者に。東京都、文部科学省、および経済関係の記事を手掛けている。

Special Feature

特別読み物



東洋大学の English Community Zone の様子。ここでは英語しか使ってはいけな

若者が“内向き志向”となり、海外留学する学生の数が減っているというが、これは、留学が果たす意義や役割を、学生がきちんと理解できていないからでは—こんな思いから、留学して国際的なキャリアを築いた人材をゲストとして招く「留学のすすめ」という授業を企画した東洋大学国際地域学部の芦沢真五教授。人的ネットワーク構築やキャリア設計といった面から留学を推奨している同教授に、授業のねらいや、自身の留学・海外体験について伺った。

留学をキャリアに生かすための授業

「留学に興味がある学生が極端に減っているとは思いません。ただ、多くの方が『語学力に自信がない』『海外生活をするのが不安』『就職が心配』といった理由で、留学をあきらめてしまう。『留学のすすめ』では、国際的に活躍する留学経験者の話を聞くことに加え、学生自身に留学の意義や目的をしっかりと考えるため自らのポートフォリオを課題として課しています」と、芦沢真五教授。今年4月から東洋大学に赴任した芦沢教授は、前任校である明治大学在籍中にこのプログラムを開発し、英語教育界の人気指導者である安河内哲也氏、Teach for Japanの松田悠介氏、インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢の小林りん氏をはじめ、パワフルな留学経験者を招いて授業を実施してきた。学生が留学の意義や成果について学ぶと同時に、自分の能力や資質を分析し、異文化に適応する方法について考える機会を提供している。

「留学とは、一人一人の学生によって異なるもの。日本では得られない環境の中で、自分の力で人的ネットワークを築き、コミュニケーション能力を鍛えるための経験です。留学によって何が得られるか、自分自身で検証し、いざ留学した際にその経験を最大限に生かしてほしいと考えています」

同級生の留学に刺激を受ける

こうした授業を展開しているのは、芦沢



芦沢先生のクラスの様子

教授自身、留学や海外生活によって得られるものの大きさを実感しているからだ。芦沢教授は厳しい競争を勝ち抜き、アメリカの大学院で学ぶ者に支給される「フルブライト奨学金」を取得。ハーバード大学の大学院で国際教育学を専攻した。

「ハーバードの大学院での学生生活は、まさに寝ないで勉強した日々でした。レポート提出の日、教授の部屋のドアが閉まってしまい、一瞬の差でレポート提出が間に合わなかった、という夢を今でも見るくらいです(笑)」

大学院修了後は、慶應義塾の一貫教育校である慶應義塾ニューヨーク学院に勤務。その後帰国して慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス、大阪大学、明治大学を経て現職と、輝かしい経歴の持ち主であるが、当初から英語や海外に関心のある優等生として歩んできたわけではない。「中学・高校と東京の進学校に通っていたのですが、特に上位の大学に進もうという希望がなく、そのまま系列の大学に進みました」。卒業後は社会福祉関係の仕事に就いていたが、大手企業や官公庁に務める高校の同級生らが、留学の機会を得てどんどん海外に出ていくことに気づいた。

「当時は日本企業が欧米に多数の海外拠点を持っていて、企業派遣で留学する人も多かったのです。『留学くらい、自分にもできるのでは』と英語力を測定する試験を受けてみたところ、海外の大学入学にはおおよそ及ばない得点。これにはショックを受けました」

28歳にして一念発起し、英語学校に通うなどして学習を開始。ちょうどそのころに出合ったのが、ドイツ人技術者カール・ハイント・イスライフ氏の著書『「どうも、よろしく、がんばります」日本勉強』(新潮社)だった。

「イスライフさんは元ター技術者で、日本や日本語とはまったく関係のない生活を送っていたのですが、34歳でたまたま出張でやってきた日本にひかれ、37歳でミュンヘン大学日本語科に入り直し、日本語を猛勉強したのです。北海道大学にも留学、日本語弁論大会で優勝するという快挙を成し遂げました。その後、東京で外資系企業などを歴任された方です。この本に感銘を受け、勉強会に来てほしいと、ご本人に会いに行ったことでイスライフさんから元気ももらい、人生を変える留学に踏み切ることできました」

30歳を過ぎて米ハーバード大学大学院へ

海外で学ぶことに高い関心を持つようになった芦沢教授は、福祉関係の財団を辞め、国際教育機関に転職。その頃、知り合った妻のCarolynさん(現在は成蹊大学の常勤講師)の献身的サポートもあって英語力は着実に伸びた。今でも奥さんには頭があがらないそうだ。いよいよアメリカの大学院への留学を決めたときには、30歳を過ぎていた。

「事前に大学の下見をするためにアメリカを周り、ハーバード大学、スタンフォード大学に絞ったのち、フルブライト奨学金を得てハーバード大学教育学部大学院への入学を決めました。ハーバードの教育学部は、教育機関のマネジメントやビジネスモデルなどについて学ぶこともでき、その後教育機関の管理などを行うにあたり、非常に役に立ったと考えています」

ハーバード大学卒業後、最初に就いたのは慶應義塾ニューヨーク学院の事務職。

「生徒はほとんど日本人ですが、基本的に英語の授業が70%以上で、職員や教員の多くもアメリカ人でしたから、日本語と英語両方を駆使してマネジメントを行う人材が求められていたのです」

1年後に日本に戻り、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の事務に携わるようになった。湘南藤沢キャンパスは、1990年に開設、AO入試、FD(学生による授業評価)など、現在は日本の大学でもごく一般的になってきている各種の制度を、日本でごく初期に取り入れたキャンパスである。芦沢教授が着任したのは開設して7年後のこと、さまざまな試みが続ける新しいキャンパスの中で、忙しい日々を送っていたそうだ。

その後大阪大学の留学生担当教官の公募に応募して採用され、外国人留学生の学習指導などを行う仕事に就いていたが、再び慶應義塾ニューヨーク学院に事務長とし

て戻るようになった。

「アメリカの学校では、事務長は、弁護士と度々打ち合わせをしなければなりません。教員の労働条件など法律上の厳しい決まりがあり、日本の学校とは全く仕事の内容が違っていたと思います」

慶應義塾ニューヨーク学院の生徒の多くは寮生活を送っているが、学校生活情報、教務情報、寮からの外出記録など、生徒の情報をオンライン化し、日本にいる保護者もインターネットを通じて子どもの生活状況がわかるシステムなどを構築するなど、学校運営の近代化のために専心した。

日本の大学のグローバル化に貢献

慶應義塾ニューヨーク学院の事務長を4年務めたところで、「国際教育の現場に教師として戻りたい」と、2010年、設置されて間もない明治大学国際連携機構の特任教授に。この機構は、大学全体の国際化を進め、日本からの留学生送り出しと、海外からの留学生受け入れを強化するという役割を担っている。芦沢教授の着任当時、明治大学は文部科学省の推進する「グローバル30」という事業の拠点として活動を始めた時期で、芦沢教授は、英語圏の協定校の拡大や外国からの留学生受け入れ体制の強化などに参画することになった。「グローバル30」とは、「国際化拠点整備事業＝大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」を指しているが、英語だけで学位取得ができる教育プログラムを設置するなど、日本の大学を国際的に通用する大学へ発展させていくことを目標としている。芦沢教授は、日本人学生にもっと留学に目を向けてもらおうと、冒頭で紹介した「留学のすすめ」の授業を開始、多くの学生が受講した。今年春の東洋大学着任後も全学部の学生を対象とする授業として「留学のすすめ」を担当している。

現在東洋大学では、国際地域学部の教授を務め、やはり文部科学省の推進事業であるグローバル人材育成推進事業を担当。また、学生による「eポートフォリオ」の運用についての研究を続けている。

「学生の海外研修は、交換留学や語学研修にとどまらず、ボランティアやインターシップなど多様化しています。eポートフォリオは、学生の活動をデータベースの中に記録し、学生が自らの学習体験を振り返ることができると同時に、指導する側も海外研修の成果を客観的に評価することができるようにしています」

特定の海外留学のプログラムがどのような成果を上げられるか、学生の帰国後の感想だけでなく、資料から分析することで、大学がより留学のプログラムを取り入れやすくなるのでは、ということだ。



芦沢真五

武蔵大学経済学部卒業。東京都社会福祉振興財団、CIEE(国際教育交換協議会)勤務を経て、フルブライト奨学生としてハーバード大学教育学部大学院に留学、国際教育を専門とする。慶應義塾ニューヨーク学院、大阪大学、明治大学国際連携機構等を経て現在東洋大学国際地域学部教授。

Learn About Industries

この業界を知りたい!

この業界を知りたい!

出版業界は、今、転換期を迎えている。インターネットの台頭や娯楽の多様化により、「本が売れない」状況が続く。その一方で、電子書籍という新たな媒体の登場により、出版物そのもののあり方が変わろうとしている。就職においては「狭き門」と言われる出版業界の特色や魅力について、一般社団法人日本書籍出版協会事務局の樋口清一さんに聞いた。

ジャンル、対象者とも多岐にわたる

現在、出版社の数は3,000~4,000社ほどあると言われている。出版の自由は日本国憲法第21条で保障されており、誰でも自由に出版社を立ち上げることができるため、多くの出版社が存在する。しかし、その約半数が社員10人以下の小規模な企業であり、大手の講談社、小学館、集英社などでも、社員数は1,000名以下だ。自ずと採用人数も少なく、新卒の定期採用を行っていない企業も多い。そのため、大学生の就活という点では、非常に「狭き門」となっている。

出版社の刊行物は、主に雑誌と書籍に分けられる。いずれも、コミックから専門書まで幅広く、読者層も幼児から年配者まで全世代にわたる。樋口さんは、「扱う商品のジャンルや対象者がこれほどまでに多様な業界は、他に類を見ないでしょう」と、出版業界の特色を述べる。

出版社には、本づくりに直接携わる編集をはじめ、雑誌・書籍を売る営業、雑誌などの広告ページを担当する広告、出版物のPRを担当する宣伝、資材（紙）を調達する制作、在庫管理を行う倉庫管理のほか、経理、財務、人事といった総務などの職種がある。小さな出版社では、いくつかを兼務することも多い。また、意図的に部署をローテーションさせ、さまざまな仕事を経験させる企業も増えている。多様な仕事内容や立場を経験することで、出版物を多角的に理解することができ、より良いものづくりの原動力が生まれる。

出版社で働く魅力は、なんと言っても、「本を作る喜び」を感じられることだ。「自分が携わった雑誌や書籍が世の中に流通し、人の手に渡り、誰かの心に届くこと。そして、その本が自分の命よりも長くこの世に残ることは、とても得難い幸せだと思います」と、樋口さんはその醍醐味を語る。

出版業界の期待の新星、電子書籍

現在、国内には約90万点の出版物が流通し、年間約7万点が新たに刊行されている。しかし、1996年をピークに、出版販売額は年々減少の一途をたどっている。2012年の総販売額は前年比3.6%減の1兆7,398億円で、そのうち雑誌が54%、書籍が46%となっている。書籍のミリオンセラーは、『聞く力 心をひらく35のヒント』（阿川佐和子著・文藝春秋）の1冊のみ。雑誌の販売額も、過去2番目に大きな落ち込みとなった。

「本が売れない」状況の背景には、景気の低迷や若年人口の減少がある。また、インターネットの利用が広がり、雑誌や書籍の情報収集手段や娯楽としての価値が低下している状況もある。「若い世代を读者、購買者として育てていかないと、雑誌や書籍の需要は今後も縮小してしまいます」と樋口さんは現状を憂う。

紙媒体が不振な一方、近年は電子書籍に注目が集まっている。2012年の電子書籍市場は約750億円であり、紙の出版物の1.7兆円強に比べると、5%以下に過ぎない。しかし、インターネットメディア総合研究所で

は、2017年度には約2,400億円程度の市場に拡大すると予測している。楽天「kobo Touch」、アマゾン「Kindle Paperwhite」などの新たなデバイスの発売、プラットフォームの新規参入、書店と連携した販売プロモーションなどで、電子書籍を取り巻く環境の整備は着々と進んでいる。

この動きを受け、大手出版社を中心に、既刊書籍の電子化を進める企業が増えている。また、紙の書籍と電子書籍の同時発売や、電子書籍のみでの刊行物なども出てきている。さらに、動画やインターネットとの連携など、電子に特化したリッチコンテンツの充実も期待される。日本語の組み版は電子版にレイアウトしにくい、電子化にコストがかかる、ジャンルによる向き・不向きがあるといった課題や、著作権や価格設定の問題もあるが、電子書籍が今後の大きな成長分野であることは間違いない。

紙の出版物と電子書籍は対峙するものではなく、根本は同じだ、と樋口さんは言う。「大切なのはコンテンツです。紙なのか、電子なのかというのは、媒体の違いに過ぎません。いかに良いものを作るかという本質は変わらないのです」。そして、「良いもの」を見極める力こそが、出版業界で働く者に求められるのだと続ける。「大切なのは、いかに読者目線でできるか。電子書籍づくりに興味がある人も、それを忘れないでほしいですね」

人とつながり、人をつなげる

転換期を迎えている出版業界では、「企画力と独創性」が必要とされている。編集者は、いわば「プロデューサー」だ。読者に響く企画を立て、必要な人員を集め、かたちにする。書籍であれば、著者を探し出し、共に作品を作り上げていく。雑誌であれば、企画に合ったライターやカメラマン、イラストレーターなどに仕事を依頼し、まとめ役となる。そのため、「人」に興味があり、人とつながり、人をつなげるのが好きな人が向いている。また、物事に広く興味を持ち、世の中の動きに敏感であること、自分の考えに凝り固まらない柔軟性も必要になる。



毎年7月に東京ビッグサイトで開催される「東京国際ブックフェア」。日本最大の「本」の見本市であり、出版物に関するあらゆるテーマについて、出展やイベント、各種セミナー、講演などが行われている。

出版業界は、憲法で保障される「言論の自由、出版の自由」の精神を色濃く受け継いでいる。そのため、業界全体に自由な風潮がある。仕事上の立場の上下なく、自由に発言ができる社風の企業も多い。また、出版社同士の横のつながりが強く、他社との交流、情報交換なども積極的かつ自由に行われている。一方で、自由であるということは、自主性が求められるということでもある。自ら問題を発見し、その解決に取り組む力、自発的に考え、行動する力が求められる。

出版業界を目指すにあたり、「考え方、方法は二つある」と樋口さんは言う。一つは、「どのような本を作りたいか」を重視して、企業を選ぶ方法。もう一つは、「出版社に入ること」を目指して就職活動をする方法だ。新卒の学生にとっては、出版業界に就職すること自体が難しい。「前者がベストでしょうが、どのようなかたちであれ、業界に入ることを目指すのも一つです」とアドバイスする。同業社間での転職が多い業界のため、入社した会社で経験を積み、ステップアップを目指して転職する人も少なくない。

「たくさん本を読み、自分の頭でいろいろなことを考えてほしい。そして、書店に頻りに足を運んで、さまざまな本と出会ってほしい」と、樋口さんは出版業界を目指す学生にエールを送る。また、出版業界を知るためには、各種イベントなども活用しようアドバイスする。日本書籍出版協会では、毎年7月に「東京国際ブックフェア」を開催している。出版社や制作会社など、多くの企業が出展しており、業界を知る良い機会となるだろう。

一般社団法人 日本書籍出版協会
http://www.jpba.or.jp

世界基準のビジネス英語能力テスト

BULATS

The Business Language Testing Service

世界約47カ国1,172団体、
日本でもすでに350以上の企業・団体が採用詳細は www.eiken.or.jp/bulats

お問い合わせ tel 03-3266-6366

mail stepbulats@eiken.or.jp

世界と繋がるために

Are you sure your message is getting through?

BULATS

Fast, reliable,
and global

Studying Abroad in the U.S.A.

私の米国留学

Studying Abroad in the U.S.A. 私の米国留学 アメリカ留学もIELTSの時代へ ～IELTSはアメリカの約3,000の大学・プログラムで認定されています～

アメリカの大学や大学院では、これまで多くの日本人学生が学んできました。そして現在もまた、夢を抱いた学生たちが留学しています。彼らはどんな留学生活を送り、留学で何を感じたのでしょうか。このコーナーでは、留学経験者や現在留学中の学生に、留学の様子やメリット、英語学習、アメリカの魅力などについて伺います。

本コラムは以下の2団体の協力により連載をしております。

■ JGSAU(米国大学院学生会) <http://gakuiryugaku.net/> ■ USCANJ(アメリカ学部卒業生ネットワーク) <http://www.uscanj.net/>

広い視点で考えれば、課題を乗り越えられる

ハーバード大学 永井 直樹さん

クラスメイトと集まって悩み、夜明けを迎えました。文系の授業では読書課題が毎週700ページほどあり、アメリカ人でも相当苦勞します。このような授業を1学期に4コース履修するので、全ての課題をこなすとなると時間が足りません。

ただし、宿題は協力しても良いというルールがあります。分担したりアイデアを出し合ったりしながら問題を解き、また読書を分担して要点をまとめて議論します。成績を左右する宿題を協力して行うことに最初は抵抗がありましたが、大きな研究や仕事は仲間と協力して達成できるものです。知識だけでなく、より大きな視点で課題を乗り越える発想を鍛えられた4年間でした。その証拠に1年生の頃は徹夜続きでしたが、上級生になると自由な時間が増えたものです。

ハードな学生生活ですが、得るものも大きいと思います。卒業生として日本の入学志望者の面接をする中で、最近では日本の高校からの入学志望者も増えています。短期間の留学ではなく、海外に進学するという選択肢が徐々に広まってきたのかもしれない。

永井 直樹さん プロフィール

ハーバード大学応用数学科卒。経営コンサルティング会社のマッキンゼーに勤務後、トラディナ株式会社を創業し代表取締役を務める。

寝食を共にし、幅広い科目を学ぶ

高校卒業後、アメリカのハーバード大学に進学しました。優秀な教授と学生が集まるこの大学に独特の雰囲気があることは、映画や小説を通じて知っていました。どんなところなのか自分の目で確かめたい、体験してみたいという思いが最大の進学の動機です。

アメリカでの大学進学を希望した理由の一つは、幅広い分野で視野を培う教養を重視することが希望に合っていたからです。他にイギリスと日本の大学も検討しましたが、どちらも学科や科目を選んでから受験します。一方、アメリカでは専攻を決めるのは2年生になってからでした。

もう一つの理由は、ハーバードは全寮制であり、勉強も交流も課外活動も24時間本気で満喫できると思ったからです。これは「通学」する日本の大学生活と大きく異なります。寝食を共にした学友たちは一生の財産です。

忙しくも爽やかな学生生活

入学して驚いたのは宿題の量です。宿題は成績の半分位と大きな比重を占めます。1年生向けの数学入門コースでは毎週宿題が出されましたが、誰も解けないほど難問です。締め切り前は毎週

「憧れ」に向かって

ミシガン大学 原 健太郎さん

日本の学部・修士課程を経て、博士課程でアメリカの大学院に進学したと思ったのは、一言で言うと「憧れ」によるものでした。

航空宇宙のメッカ

一つは、航空宇宙の本場に行きたいという気持ち。月に人類を送ったり、スペースシャトルを打ち上げたり、火星に探査機を送るといったミッションがあるアメリカは純粋にカッコ良い。優秀な科学者・エンジニアが世界中から集結する、面白いワクワクするようなプロジェクトがある、そんなアメリカで勉強したいという気持ちが常にありました。現在、私は次世代のロケットエンジンである電気推進の研究を行っています。NASA・空軍・国立研究所との共同研究も活発にあり毎日が充実しています。日本で学生だったときに比べ、アメリカに来てから世界一流の研究者たちと交流する機会が飛躍的に増えました。日常的に英語で他人と交流する機会が増えたおかげだと感じています。

文化を楽しむ

もう一つは、アメリカという文化への憧れ。留学をする上で最も大切なことは、現地の文化を楽しむという気持ちを持つことです。例えば、日本に比べると正月・花火大会・お祭りのような日本独自のイベントがある

原 健太郎さん プロフィール

東京大学工学部卒業、工学系研究科航空宇宙工学専攻(修士)修了。ミシガン大学航空宇宙工学専攻で博士課程に在籍。

大学のスタジアムにてアメリカンフットボールの試合。全米一の集客人数を誇る。

ように、アメリカでは、7月4日にBBQして花火を見る、Halloweenで近所の子どもたちにおやつを配る、Thanksgivingにアメリカ人の友達の家でターキーを食べる、といったイベントがあります。このような現地の文化を体験したり、音楽・ドラマ・映画・スポーツを楽しめば、言語の習得も早いし何よりも留学生活が楽しくなります。日常の些細な出来事を話すことも会話に含まれるので、現地での体験や情報収集は日常会話において大事です。

良し悪しを考えることはもちろん重要な視点ですが、「憧れ」があれば、勇気を持ってそれを追いかけるということが私にとっての「留学」です。

JTスタッフがオススメする

読んでほしいこの3冊

世界で活躍するには、語学力のみならず、人間の奥深さも大切。読書を通じて、見聞を広めよう。このコラムでは毎回、ジャパネットのスタッフが大学生に向けてお薦めする本をご紹介します。

● 今月の推選人 ●

クロスメディア営業部 中川 昇 (なかがわ のぼる)

オススメ 1 **人生は勉強より「世渡り力」だ!**

世界で最初に「痛くない注射針」を作ったという、東京・墨田区の金型工場のオヤジの本。学歴はないが、どこにも作れない製品を作ることで、世界中の一流企業から依頼が絶えない。この著者が説くのは、勉強以上に大事なものは、世渡り力だということ。きれいごと抜きで、どうやって世間で勝ち抜くか。まさに、学校では学べない教への数々。社会に出る前に、一読しておくのも悪くない。

岡野雅行 (青春新書インテリジェンス)



オススメ 2 **金のつくり方は億万長者に聞け!**

誰もが知る大富豪ドナルド・トランプ。本業は、不動産やカジノ経営などだが、映画やテレビ番組での露出も多く、アメリカではセレブの象徴だ。本書は、彼の仕事の流儀を綴った本。いかに仕事を進め、会社を管理し、人づきあいをしているか。「細部にこだわり」「勢いを保て」「一日3時間内省せよ」などのアドバイスのほか、典型的な1週間が分単位で紹介されている章もあり、興味深い。

ドナルド・トランプ (扶桑社)



オススメ 3 **やっぱり変だよ日本の営業**

著名な中国人実業家による日本営業論。自ら創業した会社を、東証一部上場を果たすまでに育て上げた著者の見る目は実にストレートであるがゆえに、耳が痛い。努力や根性、売上至上主義などのあるべき論が横行する日本企業のあり方を指摘し、より効率の良い営業のあり方を提案する。これから社会に出ていく人の参考になるかもしれない。

宋文洲 (日経ビジネス人文庫)



News in English

英文記事を読んでみよう

This month's selections from The Japan Times

Exchange student who gave life hailed

Tomohiro Osaki
STAFF WRITER

Prime Minister Shinzo Abe and South Korean President Park Geun-hye praised exchange student Lee Su-hyon, who died 12 years ago Thursday attempting to save a Japanese man who had fallen off a Tokyo train platform onto the tracks.

It's the first time the leaders of the two nations, at odds over a group of islets in the Sea of Japan, have offered such messages.

Abe expressed his sincere wish that Lee's spirit of altruism and courage will continue to be passed down to future generations.

In her statement, Park said: "We should once again remember his heroic deeds and I wish from the bottom of my heart that Asian nations, including Japan and South Korea, will further mature their friendship in the future."

The 26-year-old Lee was killed by a train

in 2001 when he jumped off the platform at JR Shin-Okubo Station to assist a drunken Japanese man who had fallen onto the tracks. Another Japanese man who also came to the drunken man's aid was killed too. The three were strangers.

After the tragedy, Lee's parents received condolence money from all over the world. In 2002, they donated ¥10 million to an annual scholarship program for Asian students "keen to become a bridge between Japan and their home country," like Lee.

So far 640 students have benefited from the program, including 50 this year. About 30 attended a ceremony Thursday.

"I find it very meaningful that this scholarship program has encouraged many exchange students who want to become an 'international bridge' to study hard and laid the important foundation of friendship between Japan and South Korea," Abe said in a statement released



Remembering a hero: Lee Sung-dae and Shin Yoon-chan (right), pray Thursday on the platform at JR Shin-Okubo Station in Tokyo where their son, Lee Su-hyon, died 12 years ago trying to save a Japanese man who had fallen onto the tracks. YOSHIKI MIURA

at the ceremony.

Ties between the nations soured last year when then-South Korean President Lee Myung-bak made an unprecedented visit to a cluster of disputed islets in the Sea of Japan, called Takeshima in Japanese and Dokdo in Korean.

Prior to the ceremony, Lee's parents, Lee Sung-dae and Shin Yoon-chan, paid a visit to Shin-Okubo Station to place flow-

ers and take a look at barriers on the platform set up in September to prevent passengers from falling onto the tracks. The two said the barriers came 12 years too late but still hailed them as a great step forward in securing passenger safety.

"If the barriers had already been in place when that accident happened, my son would still be alive. That thought wrenches my heart," said the father.

Firm wants your smartphone to smell

Scentee senses big opportunities with accessory that emits fragrances

Kazuaki Nagata
STAFF WRITER

When operating a smartphone, three of the five senses are used: touch (manipulating the screen), hearing (listening to music or a show — or just participating in that old-fashioned activity known as a phone call) and sight (viewing photos or video on the high-resolution display).

The other two senses — taste and smell — may not come into play, but Tokyo-based Scentee Inc. wants to change that. It is releasing a gadget to the market next month that will make smell a part of the smartphone experience.

The attachment, also called the Scentee, emits a scent in accordance with how the phone is being used. It is believed to be the world's first such device for smartphones.

Having already created a buzz, especially overseas at a Spanish trade show, the firm has high hopes for the Scentee when it's released Nov. 15.

The device, which is plugged into the earphone jack, has a tank that can puff out a scent about 100 times.

The Scentee can act as a simple scent diffuser if the user sets the device to spray automatically at specific times, for instance when one is getting up in the morning. But it can also be a communications tool, which the manufacturer aims to improve further.

For example, the app that drives the

device can work with Facebook and Scentee users can make it emit a pleasing aroma when their entries get a "Like," or customize it further to do so every 50 or 100 "Likes."

"We hope to facilitate the Scentee as a communications tool ... so we want to develop an SNS application" that is focused on scents, said Masaru Tange, chief executive officer of Shift Inc, the parent of Scentee Inc.

The idea of a gadget that could let users enjoy scents while using their smartphones was initially floated around 2010, according to Aki Yamaji, a corporate planning division manager at Shift.

"At first, it was really just an idea and we were talking about how it would be cool if there was this kind of thing" that enabled people to enjoy smells with their mobile phone, she said.

Although Shift is a software maker, Tange's background in hardware manufacturing helped the firm make the idea a reality. About a year later, in May 2011, the company put together a team to take a serious stab at producing such a device, and the Scentee was born.

It was during the Mobile World Congress in Spain that year when the firm realized the product's market potential.

"We received a huge reaction from people around the world. They said they wanted to become distributors of the Scentee ... we thought this can really be a hit product overseas," Yamaji said of their experience at the world's largest mobile trade show.

Scentee Chief Executive Officer Koki Tsubouchi said his firm has already been in talks with many interested parties. He refused to disclose any details but hinted that they include globally popular cosmetics brands.

He said the head of one such firm was astonished when he saw the Scentee.

"I think experts in the 'scent business' are not necessarily familiar with information technology, so it might be an unknown field to them," Tsubouchi said.

Currently, the firm is planning two business models with the Scentee, Tsubouchi said. One is to sell cartridges of various aromas, such as rose, lavender, jasmine and strawberry.

They will be priced at ¥500, and the company plans to let third parties sell them as well by selling them empty cartridges. The Scentee itself will be sold at ¥3,480.

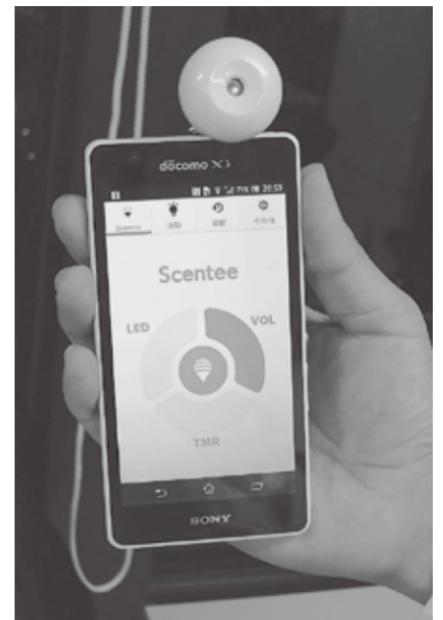
Another strategy is to collect data on when and where people diffuse what kind of scent and build a big database.

Tsubouchi believes that once his firm creates this database, many companies doing business in relation to scents will come calling.

The attachment will also allow these firms to send out samples of their products in cartridges and then, because smartphones are involved, quickly get reactions from around the world, he said.

There are other ideas, too, such as using GPS to diffuse scents when they approach certain places while driving, he said.

In the meantime, Scentee is planning



Fragrant: The Scentee attachment, which is loaded with a small cartridge containing an aromatic chemical mix, is shown at a media event in Tokyo on Sept. 27. KAZUAKI NAGATA

to introduce an application called Hana Yakiniku (Nose Barbecue) when the device debuts next month.

The app provides video images of meat being grilled and causes the Scentee to emit a scent of barbecued meat.

People interested in this app will need to buy a package of three cartridges containing the smell of barbecue rib, tongue and potatoes with butter.

Tsubouchi said business opportunities for smartphone accessories are growing.

Japan's smartphone accessory market will grow to ¥145 billion by 2016, he predicted, a 96 percent increase from 2012.

"The culture of spending money for smartphone accessories is becoming stronger," he said.

IELTS Hot News

世界におけるIELTSの年間受験者数が200万人を突破した。これは、年間受験者数約100万人のTOEFL iBTを大きく上回る数字だ。国内の年間受験者数も2万人を超え、さらに、大学入試への英語検定試験の活用が打ち出されたことから、今、IELTSが脚光を浴びている。

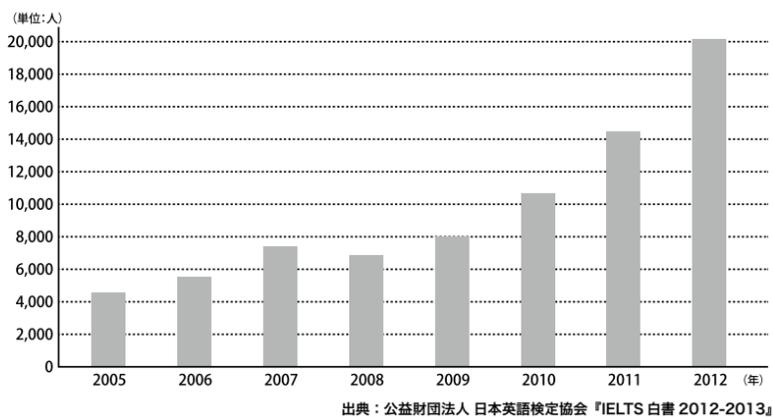
世界における受験者数が200万人を突破

IELTS 受験者数増加の勢いは、とどまることを知らない。全世界におけるIELTSの運営を担うIELTS本部は今年5月、受験者数は18年連続で増加しており、2012年から2013年にかけての受験者数が200万人を突破、対前年比で11%伸びたと発表した。これは、留学認定基準として知られるTOEFL iBTの年間受験者数約100万人を大きく上回る数であり、

IELTS が世界最大規模の英語力証明試験へと成長したことを意味する。

受験者数増加の背景には、IELTSを採用する高等教育機関の広がりがある。その数は世界135カ国、8,000以上の教育機関や国際機関、政府機関に上り、世界の名門大学の多くが、IELTSを入学基準として認定している。かつてはイギリスやオーストラリアへの留学や移住に必要な英語力を評価する試験とされてきたIELTSだが、今やアメリカ留学をはじめ世界基準の英語運用能力試験としての存在感を示すようになった。

国内における受験者数の推移



また、試験の特色も、受験者数の増加の要因の一つに数えられる。記述式のライティングテストや、面接官との対面形式によるスピーキングテストを通じて、受験者の英語コミュニケーション能力を正確に測定できることから、その信頼性と公平性が高い評価を得ているのだ。

こうして世界で受験者数が伸びているなか、国内における受験者数も、ここ数年で急増した。2005年は約4,000人にすぎなかったが、2010年よりブリティッシュ・カウンシルと日本英語検定協会による共同運営となり、受験機会が大幅に拡大したことから、受験者数は1万人を突破し、2012年には2万人と倍増した。団体受験を導入する大学・高校も増え、東京大学、京都大学、大阪大学、国際基督教大学をはじめ、現在では37校が導入している。

その一つである東京大学では、新入生の約1割にあたる希望者300名に対して、大学が受験料を負担して1年次と2年次に1回ずつIELTSを受験させ、英語力の伸長度を検証する。現在、同大では大学の国際化に力を入れており、IELTSの団体受験導入による留学促進の効果も期待している。

新聞各紙がIELTSを取り上げる

国の国際競争力強化のため、グローバル人材の育成を目指す安倍政権は、今年5月、大学入試や卒業認定の基準にTOEFL等の英語検定試験を採用することを提言した。この発表は、教育現場をはじめ世間に「なぜTOEFLなのか」と波紋を呼んだ。新聞各紙は、IELTSを含めた主な英語検定試

験に注目し、その特色を比較検討する記事を掲載した。

朝日新聞は、政府のTOEFLに偏った姿勢に対し、「その他の検定試験の浸透や開発を急ぐ動きが広がっている」とし、上智大学と日本英語検定協会が共同開発したTEAP(アカデミック英語能力判定試験)などとともにIELTSを紹介した。そして、IELTSが実施規模や認定先の数でTOEFLに並ぶこと、国内でも徐々に知名度を上げていることに触れ、「存在感を増す」状態にあると評した。

また、日本経済新聞は、国内の受験者数が多い実用英語技能検定(英検)などを挙げつつ、「グローバルイングリッシュ日経版」などの新たなテストにも触れた。そしてIELTSについては、「世界的に知名度が高い」とし、会話(スピーキングテスト)が対面式であることを特徴に挙げた。

さらに、読売新聞と日経産業新聞は、IELTSを単独で取り上げ、国内の受験者数が急増する状況や、団体受験の広がり、大学におけるIELTSの導入事例について伝えた。

現在、国内の大学では、文部科学省の「グローバル30(国際化拠点整備事業 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業)」採択校13大学がIELTSを留学生の入学要件として認定している。その他グローバル化を進める大学でも、入試への活用や単位認定が着実に進んでいる。

今後、政府が何らかの英語検定試験を大学受験に導入するのであれば、IELTSは世界で最もポピュラーな英語試験として、十分その候補の一つとなり得るだろう。

アゴス・ジャパンに聞く

海外の気になる学部

by 株式会社アゴス・ジャパン
後藤道代

世界銀行によると、1日1.25ドル未満で暮らす最貧困層の人口は、世界人口の約17%にあたる12億人に上ると言われています。この数字は、国連のミレニアム開発目標である「2015年までに1990年の半数に減らす」を達成した数字ではあるものの、サハラ砂漠以南のアフリカおよび南アジアに、依然として最貧困層人口が集中しています。これらの地域には、飢餓と健康障害、公衆衛生、教育問題、ジェンダー問題、環境破壊等、解決すべき問題が山積みになっています。国連は、新たな目標「2030年までにゼロにする」を掲げて、加盟国のさらなる協力を求めています。

官民学連携で開発課題に取り組む

大学が関わる国際協力という観点では、地域企業との共同技術開発が挙げられます。例えば、農業では、品種改良技術を地域の農作物の栽培に応用したり、水産技術を海産物の養殖に応用したり、工学では、深井戸の汚染モニタリング装置や排水処理などの環境関連技術を開発したりすることなどです。地域企業と共に事業化を目指していきます。製品化したものが、途上国の課題解決に役立つものにするためには、非

政府機関(NGO)の現地スタッフとの連携が欠かせません。また、融資支援には、政府開発援助(ODA)が必要となります。このように、官民学連携しながら途上国の開発課題解決に寄与しています。

国際開発学とは

国際開発学は、発展途上国の貧困問題の原因となる経済格差を是正するために、経済学をはじめ公共政策、社会学、教育、農業、医療、法律、工学など、多岐にわたる分野から研究する、主に大学院レベルの学問です。この分野の歴史が深いイギリスの大学では、1900年代前半から大英帝国植民地諸国における教育や開発を目的に、植民地経済学部や教育学部が設置されました。1900年代後半までには、単独の学問分野では研究が難しく、複数の分野にまたがる国際開発学となりました。世界経済のグローバル化につれ、課題はより一層複雑になり、多面的に研究を行う学問となっています。

充実した国際開発学を持つ大学

開発学で有名なイギリスのUniversity of East Angliaは、学部12コース、大学

グローバル化が進む国際社会において、共存・発展するために国際協力は不可欠です。政府開発援助(ODA)は国際社会で重要な役割を持ち、官民学連携して様々な分野の知識と技術を結集した取り組みが行われています。今回は、その中でも大学が関わる国際協力、開発学に焦点を当ててみたいと思います。

院16コースと大変充実しています。

途上国では多くが農業で生計を立てていることから、農業開発は重要な課題の一つです。MA Agriculture and Rural Developmentでは、先進国の進出による農業のグローバル化とその影響、環境破壊と貧困を生み出すサイクルなど、歴史的、社会的、ミクロ・マクロ経済学的なアプローチで研究を行います。ケーススタディー分析や応用スキルを身に付けることを目標とし、レクチャーやグループワークを通じて、世界銀行や国連食糧農業機関(FAO)などの国連主要機関の実践的な政策や業務についても学びます。

MSc Climate Change and International Developmentでは、環境破壊と貧困の相互関係、気候変動をめぐる排出権の問題、南北対立と国際交渉など、環境学の側面に、政策、法律、経済学的アプローチで研究をしていきます。持続可能な開発フレームワークを策定するための手法なども学びます。

教育分野の国際開発

ロンドン大学の専門大学院であるInstitute of Education University of Lon-

donは世界でも有数の、国際開発における教育問題や政策課題を研究するプログラムを提供しています。発展途上国の教育とジェンダー格差は切り離せない根深い問題であり、各コースで取り扱われます。経験豊富な教授陣による現場応用のできる理論を学び、政策策定やモニタリング手法など実践的なことも学びます。毎年パリに本部のあるUNESCOやOECDでの研修を通じて、国際機関の現場を垣間見ることができそうです。

株式会社アゴス・ジャパン

大学・大学院留学のテスト対策、出願対策の指導専門校。トップ校合格に必要な各種英語テストの攻略法および出願カウンセリング指導により、過去3年間で約2,500件以上という、圧倒的な合格実績を誇る。大学でのテスト対策講座なども行っている。

■アゴス・ジャパン IELTS 講座開講!

無料模擬試験&体験授業開催中
http://www.agos.co.jp/program/test_program/ielts_course/

後藤 道代 (ごとう みちよ)



留学カウンセラー歴18年、アゴス・ジャパン学部留学担当、インディアナ大学教育大学院、言語教育学修士、ブリティッシュ・カウンシル公式資格取得カウンセラー

Study Abroad Benefits

留学で培う3つの力

留学で培う3つの

力

Vol. 7

University of Sussex 家村美輝

留学を通して何かを身につけたり、考え方に影響を受けた人は多い。このコーナーでは「IELTS 北米奨学金」「IELTS Study UK 奨学金」の受賞者たちに、留学で培った3つの力について語ってもらう。今回は、University of Sussex の家村美輝さんに話を伺った。

私は2012年9月から2013年6月まで、大学の交換留学プログラムを利用して、イギリスにあるサセックス大学で留学生を送りました。イギリスでは、フェアトレード運動、エシカル・コンシューマー(倫理的な消費者)運動など、市場における搾取の問題を市民の側か

ら解決しようとする取り組みが活発です。持続可能な社会の実現に向け自分に何ができるか考えたいと思い、開発学の権威であるサセックス大学に留学することを決めました。10カ月間の留学生活で身につけた3つの力について、振り返ってみたいと思います。

◎グローバル人材力

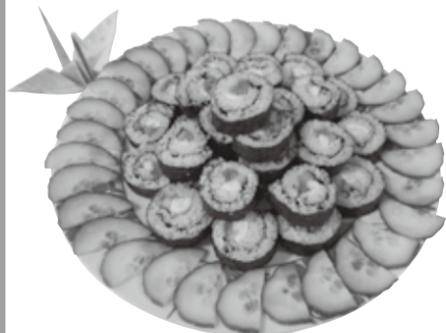
学生の約30%が海外からの留学生という国際色豊かなサセックス大学では、毎日さまざまな人との出会いや気づきがあり、視野が大きく広がりました。

例えば、留学生歓迎パーティーで出会ったある女性に、“Where are you from?”とあいさつ代わりに聞くと、ため息交じりに“I don't like this question.”と言われて驚いたことがあります。彼女はブルガリアで生まれた後、すぐにフランスに移動し、育ったのはスイスと、複雑なバックグラウンドを持ち、自分の出自を説明するのがとても大変なのだそう。日本にいた時は「日本人」や「ハーフ」などという言葉は何の疑問もなく使っていましたが、イギリスでは彼女のような人にたくさん出会い、人種や国籍といった概念でその人を語ることはできないのだと気づかされました。

また、ベジタリアンとビーガン(動物性の食品を摂らず、革・ウールなど動物性の製品も使用しない人)人口の多

さにも驚かされました。入学当初に参加した地元のレストランを紹介するイベントでは、メンバー10人中6人がベジタリアンまたはビーガンということがありました。その後もさまざまな人と食事をする機会がありましたが、出身国を問わず、そうした主義を持っている人が非常に多いのが印象的でした。そのため、学内や地元のレストランのメニューには、日本ではまだ珍しいベジタリアン、ビーガン、そしてハラール(ムスリム用の食品)などという表示があり、とても興味深く感じました。食に関してさまざまな思想を持つ人がいると実感できたのは、世界の多様性を理解する上で重要なことだと思います。

他にも、ムスリムの友人と宗教について議論したり、異なる価値観を持ったフラットメイトたちと生活したりする中で、固定観念から自由になり、さまざまな文化や考え方を尊重しながら柔軟に交渉や協力ができるようになりました。もちろん、イギリスでの学びが世界のスタンダードではありませんが、今後国際社会でさまざまな人と関わりながら生きていく中で、こうした「グローバル人材力」が役に立つと感じています。



大学で開催されたInternational Food Partyのために作った、ベジタリアンにも人気の巻き寿司。

◎突破力

私にとって今回が初めての長期留学だったため、はじめはフラットメイトたちとの寮生活から大学とのさまざまな交渉まで、初めて尽くしの慣れない状況を自力で乗り越えていかなければなりませんでした。

その中でも最も苦勞したのは、やはり勉強面です。特にセミナーと呼ばれるディスカッション型の授業では、早口で飛び交う会話についていくのが大変で、なかなか発言することができませんでした。例えば、イギリスのポップカルチャーを批判的に考察する授業では、今まで触れたことのないイギリスのソープドラマや週刊誌などがテーマとして取り上げられ、話題がまったく理解できないまま授業が終わってしまったこともあり、世界各国から大勢の学生が集まるサセックス大学では、留学生は特別な存在ではなく、何もわからず黙っている私を気遣ってくれる人はいません。その時はそれが不親切に感じられ、このまま授業を受け続けられるだろうかと不安になりましたが、見方を変えれば「留学生」というレッテルを貼られることなく、誰もが自由に意見を言えるということだと気



キャンパス入り口にある大学名入りの石の上で

づかされました。

それからは、わからないことを恥ずかしいと思わず、考えていることは何でも思い切って話そう、その場で考えをまとめて話すのが難しいなら、事前にしっかり準備をしていこうと心がけ、徐々に自分なりの視点を活かした発言ができるようになりました。イギリスの植民地主義に関する授業でのグループプレゼンテーションでは、ディスカッションについていくのが難しかった分、得意なパワーポイントのスキルを活かしてグループに貢献しようと努めました。グループで協力し、映像を取り入れた効果的なプレゼンテーションを行い、教授から高評価をいただくことができました。

こうした経験を通して、困難な状況に直面しても、それを解決する方法をさまざまな視点から模索し、難しいことも楽しみながら乗り越える「突破力」が身についたと感じています。

◎セルフマネジメント力

約10カ月間と限られた留学期間だからこそ、自分としっかり向き合い、一瞬一瞬を大切に過ごせるようになりました。

日本での大学生生活は、授業、サークル、アルバイトと忙しい毎日に追われ、自分が何に向かって何をすべきか見失ってしまうことがありました。しかし、自学自習を重んじるイギリスの大学では、授業は週6、7時間しかなく、その分計画的なタイムマネジメントが求められます。こうした生活の中で自分自身とゆっくり向き合う時間も増え、「今だから、自分だからこそできることをしよう」と強く意識して生活するようになりました。

私が勉強以外で取り組んだことのひとつが、大学近くにあるコミュニティガーデンでのボランティアです。サセックス大学は、イギリスで唯一、緑豊かな国立公園の中にある大学です。その公園の一角に、地元の人や障害を抱えた人など、さまざまな人が協力しながら野菜を育てているコミュニティガーデンがあります。大好きな自然の中で、イギリスの市民社会活動を支える人々と関わりたいと考えていた私は、大学のボランティア幹旋部署からこの場所を紹介してもらいました。活動内容は畑の雑草抜き



Trapezeのクラスのメンバーと、クリスマスパーティーでの一枚

や昼食の準備など、その時自分にできることをするといった自由な雰囲気でした。主婦の方や大工からコックに転職した女性、コンポストに造詣の深い方など、一緒に活動する方々は大学内では出会えない人たちばかりで、彼らとの会話から、イギリス人のボランティアや仕事に対する考え方などを学びました。

他にも、時間を見つけてロンドンの美術館に出かけたり、大学のスポーツセンターでTrapeze(天井に吊られた縄や布を使った空中演舞)のレッスンに参加したり、ヨーロッパを旅行したりもしました。「今」と「自分」をしっかり見つめて自律し、積極的に行動する「セルフマネジメント力」は、今後の人生を通して生きる力だと思います。イギリスでの一つひとつの経験が自分の将来につながっていくと信じ、挑戦を続けていきたいです。

University's Challenge

国際交流に取り組む大学

外国語学部の「全員留学」も視野に、日中英トライリンガル人材を育成

杏林大学

2016年4月、東京・三鷹に新キャンパスを開くことを決定し、外国語学部において「日中英トライリンガル人材の育成」を推進している杏林大学。今後は外国語学部の「全員留学」も予定されている同大のグローバル化構想について、今年度から新たに就任したポール・スノードン副学長らに伺った。

「本当の国際人」を育てるため 中国語も全員必修に

「2016年4月から、現在の三鷹の医学部のキャンパス付近に、外国語学部・総合政策学部・保健学部の学生が学ぶ新しいキャンパスがオープンします。文系学部・医療系学部の連携をさらに強めた大学として個性を打ち出していきたいと考えています」と述べるポール・スノードン副学長は、早稲田大学国際教養学部で4年間学部長を務めたこともあり、今春、杏林大学の副学長に就任した。外国語学部を中心としたグローバル人材育成を推し進めている。その構想の一つが、外国語学部学生の「全員留学」だ。「留学は、現在オプションとして用意していますが、今後、外国語学部の学生に一定期間、一斉に留学してもらうことを考えています。4年間の学生生活の間に留学というより大きな刺激を受けることで、将来の選択肢の幅が大いに広がるはずだ」

外国語学部は現在、八王子キャンパスに置かれているが、昨年度、「中国語圏で活躍するスマートでタフな日中英トライリンガル人材の育成」というテーマで文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択され、日本語・中国語・英語による語学力・交渉力の強化に努めている。外国語学部の赤井孝雄学部長は、「これからは世界の先進国で通用する英語だけでなく、経済成長著しい中国語圏の言葉を理解できてこそ、本当の国際人といえます。そこで、英語学科、中国語学科、観光交流文化学科の全学科において、英語と中国語を必修としています」と語る。

中国語学科では、中国政府の公認資格であるHSK5級以上とIELTS4.5以上、英語学科・観光交流文化学科ではHSK2級以上・IELTS6以上といった目標を定め、独自の語学教育を進めている。

中国語については、CIC(=Chinese for International Communication)という共通プログラムを用意した。基礎から日常会話、留学、ビジネスに使えるレベルまで、約2年で習得できるように設計されている。英語については、以前から実施されているPEP(=Practical English Program)を活用する。生きた言葉を「真似る」「なれる」「覚える」トレーニングを重視し、やはり2年間で実践的に使える英語の習得を目指す。このほか、英語学科で

は全員が3カ月以上英語圏に留学するインテンシブ・プログラムを実施し、中国語学科では通訳・翻訳の上級クラスにおいて中国からの留学生と合同で授業を受けるなどの工夫も行われている。

また、学内には、ネイティブの教員が常駐する「中国語サロン」「英語サロン」を設置。同大に多数在籍している外国人学生も交え、空き時間に外国語で気軽に交流できる機会を設けている。このサロンや食堂、ホールなどには、中国国営放送、BBC、CNNなど海外のニュースを見ることができるモニターを用意した。普段のキャンパス生活の中で、日常的に外国語に触れることができる環境が整えられているのである。さらに、学生が大学でも自宅でもいつでも学習できるようにと、eラーニングの教材も準備されているそうだ。

「交渉力」を磨く 問題解決型の授業を展開

杏林大学のグローバル教育の特徴は、「交渉力」を磨くプログラムを設けている点にもある。「総合政策学部との連携で、国際関係論、アジア政治論/中国政治外交論、国際経営論などを学びます。その中にケーススタディ演習を取り入れ、利害の対立するテーマについて、学生同士、日本語または外国語で議論を行います。1つの教室に専門の異なる複数の教員が入ることもあり、本格的な意見交換が行われます」と、赤井学部長。こういったPBL(問題解決型学習)がより実践しやすくなるよう、専用の「アクティブラーニングスタジオ」を開設した。可動式ホワイトボード、無線LANが利用できるプロジェクター、タッチパネル式の電子黒板など最新の機器を設置し、互いに顔を合わせて意見が交わされるよう、テーブルの配置にも配慮した。この教室で行われるディベートのシミュレーションには、外国人教員や学内の留学生も参加することもあり、インターナショナルな雰囲気の中で授業が行われている。

海外留学での経験を 外国語でプレゼンテーション

海外留学については、現在も交換留学・派遣留学・ Semester留学、また夏休み・春休みの短期研修などがあり、毎年約100人の学生が、何らかのかたちで海外留学を経験する。「学生の留学への関心は以前から高かったのですが、グローバル人材



日本人と留学生が交流できる「英語サロン」は双方にとって刺激的な場だ。

育成推進事業の開始以来、さらに勢いが増し、留学者数は次第に増加しています。海外での協定校は、中国、韓国、台湾、イギリス、オーストラリアなど12の国と地域における32大学におよび、外国語学部「全員留学」の構想もあることから、今後さらに増やしていく予定だ。

短期の海外研修については、語学を学ぶだけでなく、観光交流文化学科の学生が、シンガポールのホテルや旅行会社でホスピタリティを学ぶ、保健学部の学生が、カナダの病院施設を見学するなど、ユニークな試みも取り入れている。国内でも、オーストラリア大使館への訪問ツアーを催し、留学や現地事情についての話を聞くなどして、学生の意識を高めている。「海外は一度行ったらそれで終わりというのではなく、短期の研修に参加したのち本格的に中・長期の留学に出るというケースが増えています。それだけ、学生や保護者の意識も変わってきているようです」と、同大外国語学部の倉林秀男准教授は説明する。

海外留学を終えると、その期間や内容にかかわらず、一人一人の学生が、自分の興味や関心、体験に基づいて英語または中国語でプレゼンテーションを行う。留学は単なる海外生活の体験にとどまらず、プレゼンテーションのテーマを見つけるという課題ともなっているのである。

また、卒業研究報告会として、教師や外国人留学生らの前で英語または中国語で発表する機会もある。これには海外協定校の教師や産業界の人材も評価にあたり、質疑応答も外国語で行われるそうだ。

将来は企業で海外とのやりとりを必要とする業務につくほか、外国語教師、通訳、翻訳者、旅行会社やホスピタリティ産業で

の活躍など、多彩な可能性が開けている。

医療系学部の知識を 文系学部の授業に生かす

現在は八王子キャンパスで外国語学部、総合政策学部、保健学部の学生が同時に学んでいることから、文系学部と医療系の学部間での連携も盛んだ。「本学部の学生が医療系の教員から感染症についての講義を受けたり、救急救命活動の実践的なトレーニングを受けたりすることができます。これは、本格的なトレーニング施設を持つ本学ならではの利点です」と、倉林准教授は話す。国際線乗務員出身の外国語学部の教員を保健学部にも招き、看護師になるうえで役立つホスピタリティの心構えなどについて聞くこともあるそうだ。

キャンパス内で中国、韓国、マレーシア、フランス、ニュージーランドなどから来た120人以上の留学生が学んでいることも、同大の授業を多様なものにしていく要因の一つに数えられる。日本人学生が中国語と英語を学ぶ一方で、「日本語と英語を身につけたい」とやってくる中国人学生が多く、通訳ブースもある本格的な通訳トレーニング施設では、日本人学生と中国人学生がともにハードなトレーニングを重ねているという。「今後、外国語学部の学生が一斉に留学することになりますが、その期間、外国人留学生を招き、大学の設備を有効活用してもらう計画もあります。そのために、1学期間日本や日本語について学ぶといった短期のプログラムも設けたいと考えています」と、赤井外国語学部長は今後の展望を語る。英語のみならず中国語で授業ができる講師もそろえている杏林大学ならではの構想だといえるだろう。

杏林大学

1966年に杏林学園短期大学を開設、70年に杏林大学医学部と医学部付属病院を開く。84年に現在の総合政策学部となる社会科学部が発足、外国語学部は88年に始まった。現在は東京・三鷹と八王子にキャンパスを持つが、2016年より八王子キャンパスの全学部が三鷹に移転する。

IELTS

テストのコツ

ブリティッシュ・
カウンシル
に聞く

IELTS テストのコツ

by Chie Yasuda

世界的に受け入れられている、信頼性の高いテスト、IELTS。日本の試験と違ってビザ申請などにも使用されるため、試験日には本人確認のためのパスポート確認や、指紋認証を行います。今回は初めてIELTSを受験する皆さんにスムーズに受験していただくための心構えをお伝えします。

1) 試験日 10 日前：受験票を確認する

日本英語検定協会から届いた受験票を確認しましょう(発送は試験日の13日前)。受験票には試験当日の集合時間と会場への地図が印刷されています。慣れない場所だと困りますので、インターネットの鉄道時刻検索サイトなどで、会場までの所要時間を調べておくことをお勧めします。

2) 試験日 5 日前：パスポートを確認する

受験日には、受験申込に使用したパスポートが必要です。有効期限内であるか、また受験申込に使用したものと同一パスポートであるかを必ず確認してください。パスポートを忘れた場合や、パスポートが失効している場合は受験ができません。この場合、試験日の変更も返金もできませんので、注意してください。万一パスポートの更新をした方やビザの申請で手元にパスポートがない場合は必ず事前に日本英語検定協会まで連絡してください。

3) 試験日前日：持ち物を確認する

当日に慌てることのないよう、下記の持ち物を揃えておきましょう。
パスポート / 受験票 / 鉛筆と消しゴム / 透明なボトルに入った水

4) 筆記試験当日：パスポート持った?

遅刻や有効なパスポートの提示ができない場合は受験をすることができません。また、変更や返金を受けることもできません。家を出る前に、今一度パスポートを確認しましょう。会場での登録手続きの流れは下記の通りです。

会場到着



荷物置き場に荷物を預ける

*試験会場へは鉛筆、消しゴム、パスポート、透明なボトルに入った水しか持って入れません。消しゴムやパスポートのカバー、ボトルのラベルは外しておきましょう。携帯電話やお財布も荷物置き場へ預けてください。受験票も会場へ持って入れませんので、ご自身の受験番号は覚えてください。



試験開始後は休憩がありません。お手洗いにいっておきましょう。



IDチェック

*受験番号ごとにチェックデスクが決まっている場合がありますので、確認して列に並びましょう。



指紋登録と写真撮影

*写真撮影の際は、メガネを外してください。



会場入室

*入室後は基本的に退室できません。退室の際には必ずパスポートの確認と再度の指紋認証が必要です。



試験の開始まで、静かに席でお待ちください。

5) 試験中：実力を最大限に発揮する

IELTSの筆記試験は下記の時間割で実施されます。

午前9時にリスニングが始まり、ライティングが終了するのは午後12時20分前後です。



試験中のインストラクションはすべて英語で行われます。注意して聞きましょう。

各セクションの間に休憩時間はありません。お手洗いにいきたい場合は、試験時間中に挙手をして試験監督に知らせてください。退席時にはパスポートチェックと指紋認証を受けてください。なお、下記の間はトイレ退席ができませんので注意してください。

試験監督のアナウンス中 / リスニングテスト中 / 問題の配布回収中 / 各テスト終了5分前

6) リスニングテスト

インストラクションでも指示がありますが、リスニングテストの解答は、問題用紙に書き込みましょう。リスニング問題が終了した後、解答用紙に答えを書き移す時間が10分あります。解答を確認しながら、慌てず丁寧に書き移してください。スペリングミスは不正解となりますので、綴りにも注意を払って解答してください。

7) リーディングテスト

長文が3題出題されますので、まず3つの長文が何についての文章なのかを確認し、解答しやすい問題から開始しましょう。一言一句丁寧に読み込んでいる時間はないので、問題を見て、解答に必要な情報をスキミングとスキニングで読み取ります。

8) ライティング

1時間に2つのエッセイをこのパートでは書きます。タスク1では150語以上、タスク2では250語以上の文章を書くことが求められ、語数が少ない場合は減点の対象となります。まずは、両方の出題を見て、どちらから書き始めるか、また何を書くかのプランを立ててください。時間配分の目安は、タスク1に20分、タスク2には40分です。タスク2の方が配点が高いため、「時間切れでタスク2が結論まで書けなかった」なんていうことがないように時間配分には注意してください。

9) スピーキングテスト

スピーキングテストは、ネイティブスピーカーとの1対1での対面式で行われます。緊張するかもしれませんが、「能動的なコミュニケーション能力」を測りますので、積極的に会話を楽しむ気持ちで臨んでください。わからない点があれば、「Could you repeat it again?」と聞き返してください。また、答えを考えている間は黙らず、「Let me see」などと告げて、考え中であることを相手に知らせてください。

スピーキングテストが終わればテストは終了です。成績は筆記テストから13日後に発行され、発送されます。万全の準備をして目標のスコアを達成し、IELTSで世界への扉を開きましょう。頑張ってください!

IELTS™

IELTS.
The international
license.IELTSという名の
国際免許証

IELTS (International English Language Testing System、アイエルツ)は、英語圏への留学や、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダを始め世界135カ国で約8,000の機関が、IELTSを受け入れ基準として認めています。2012年の全世界合計の受験者数は200万人に達し、英語能力試験のグローバルリーダーの役割を果たしています。

日本では、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、岡山、福岡、札幌、仙台、金沢、さいたままで受験することができます。

お問合せ・受験申し込みは、
公益財団法人 日本英語検定協会 IELTS 事務局まで

www.eiken.or.jp/ielts

IELTSとは…

16歳以上を対象にしたテストで、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するアカデミック・モジュールと、英語圏で学業以外の研修を考えている方向けのジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があります。いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテストで構成されています。IELTSは、フェアな試験内容と高い信頼性が特徴のテストです。一般的な英語検定テストと特に異なるのは、1対1の面接形式で行われるスピーキングテストがあることです。試験官が、受験者のコミュニケーション力を最大に引き出し、評価できるようにインタビュを行います。これが、他のテストと一線を画す、生きた英語を習得できるIELTSの強みです。



ブリティッシュ・カウンシルでは、IELTS 試験対策コースを東京・横浜で開講中!!

www.britishcouncil.or.jp

f 勉強法や留学した人の体験談がわかる
<http://www.facebook.com/IELTS.BritishCouncilJapan>

公益財団法人
日本英語検定協会

BRITISH
COUNCIL

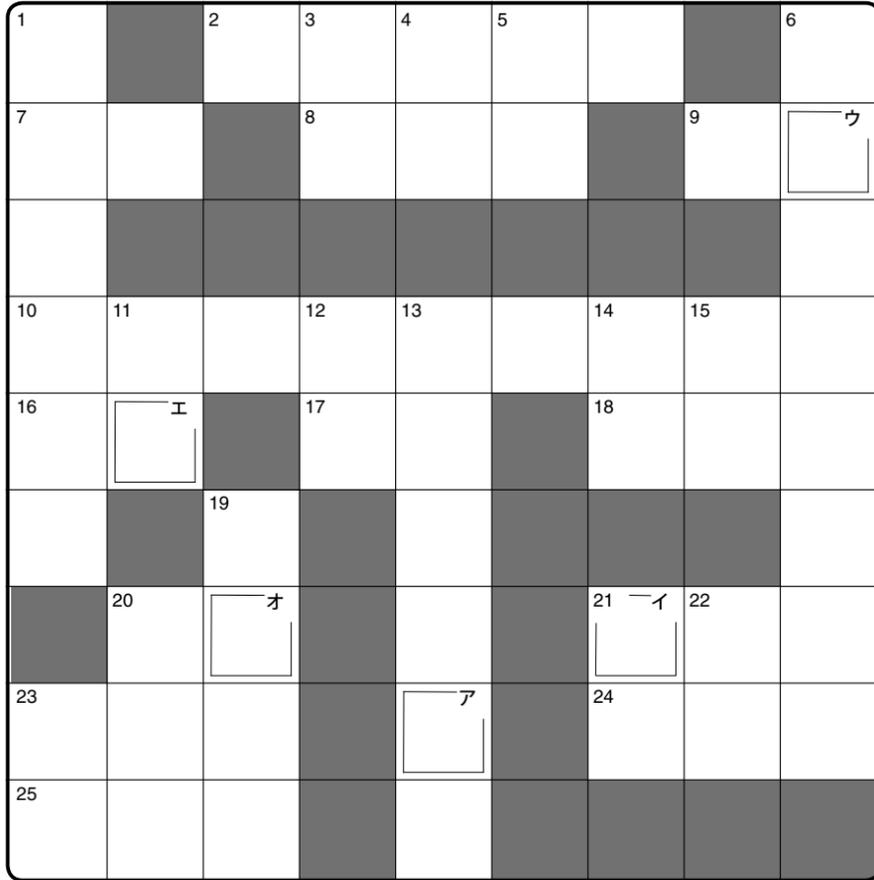
公益財団法人 日本英語検定協会は、
ブリティッシュ・カウンシルと
日本でIELTSを共同運営しています

Crossword and Trivia

読み物

Crossword Puzzle by 黒須和土

語彙力が試されるクロスワードパズル。簡単ではないかもしれませんが、根気よく挑戦してみましょう！



8. Male offspring
 9. Sooner ___ later
 10. Meeting
 16. "Thank goodness ___'s Friday."
 17. "The customer ___ always right."
 18. London ___; ___ horn
 20. ___ accident: accidentally
 21. Stone ___: sekki jidai
 23. "The ___ is cast."
 24. Move the head up and down to express agreement
 25. 1, 3, and 13 are ___ numbers.

DOWN

1. Blank space around the text on a page
 3. Pronoun used to refer to yourself and other people
 4. "___ what?"
 5. ___ your birthday suit: not wearing anything
 6. Squirmed
 11. ___ the moment: now
 12. "___, what's up?"
 13. Get away
 14. "___ it were not for hope, the heart would break."
 15. ___-brainer: something easy
 19. Purposefully stained with color
 20. You make this at an auction.
 21. "This watch cost me ___ arm and a leg."
 22. "Ready, set, ___!"
 23. To-___ list

ヒント

黒マスが漢字の「花」になっているパズル。10-Acrossの6字目は R。16-Across は「花金」にあたる言葉。17-Across は「お客様は常に正しい」。23-Across は「さいは投げられた」。dice の単数形が入ります。1-Down は「余白」。1、3、6字目は M、R、N。5-Down は「素っ裸で」という面白い言い方。6-Down は「のたかった、うごめいた」。1、3、6字目は W、I、L。13-Down は「逃げる」。14-Down は「望みなきとき心破れる」。15-Down は「簡単にできること」。yes の反対語が入ります。20-Down は「値を付けること」。21-Down の cost me ___ arm and a leg は「高くついた」。23-Down は「これからやることのリスト」。

ACROSS

2. Movie "The Sound of _____," starring Julie Andrews
 7. Red ___ a rose



※週刊STより転載

教えて! 英語のプチ教養

文：黒須和土

アメリカの州には、それぞれニックネームがありますが、どんな州がどんなニックネームを持っているのか、教えてください。

アメリカの州はすべてニックネームを持っています。ニックネームはひとつとは限りません。また、公式のニックネームを定めている州と、定めていない州があります。面白そうなものをいくつか挙げてみましょう。

アラスカ州は、The 49th State (49番目の州)、Last Frontier (最後のフロンティア)、Land of the Midnight Sun (真夜中の太陽の地) などと呼ばれます。midnight sun は白夜に出る太陽のことです。

カリフォルニア州のニックネームは Golden State。1849年、金鉱の発見によって、一攫千金を夢見た大勢の人が殺到したため、Gold State のニックネームが生まれ、のち

に Gold が Golden に変化しました。

コロラド州は Centennial State (100周年の州) として知られています。1876年の独立百年祭の年にアメリカ合衆国に加入したからです。

フロリダ州は、気候がいいことから、Sunshine State です。

ハワイは 1959年 Aloha State を公式なニックネームにしました。Paradise of the Pacific と呼ばれています。

カンザス州はニックネームが多いので有名です。Sunflower State (ひまわりの州) や Wheat State (小麦の州) のほか、Jayhawker State (奴隷解放を支持して暴れたゲリラの州) というものもあります。Jayhawker はのちに「カンザス州民」という意味になりました。

ミシガン州は Wolverine State です。ウルヴァリンはイタチ科の「クズリ」のこと。ミシガン州民がクズリのように勇猛で貪欲なことで知られていたから、こんなニックネームが付いたのだとか。Great Lakes State (五大湖の州) という呼び方もあります。

ミズーリ州は Show-Me State です。show me は、19世紀末、ある政治家が演説で「雄弁など信用できない。疑い深いミズーリ州民である私を納得させるためには、証拠をみせる (show me)」という文脈で使って人気を博したフレーズだそうです。

オクラホマ州は Sooner State です。西部開拓時代、政府が開拓地を開拓者に公開する前に、先に住んで権利を主張する "the sooners" (抜け駆け移住者) が大勢いたことからきた名前です。

ウィスコンシン州は Badger State です。badger は「アナグマ」ですが、鉛鉱採掘者がアナグマのように山腹に穴居し、越冬したことに由来する名前だといわれます。

※週刊STより転載